

2018.9.6 金子

「地区補助金プロジェクトの実施に当たって」(No.09)

来る9月13日(木)に2018-19年度 宇部ロータリークラブによる“ロータリー財団の地区補助金プロジェクト”が実施されます。プロジェクトの正式名称は

『社会福祉法人 高嶺会 障害者支援施設 高嶺園の多目的室に、日中稼働及びイベント時のビデオ放映用に大画面テレビ一台を寄贈する』です。

このプロジェクトは、以前に会長の時間にご紹介した『奉仕に関する5つの視点』とロータリーの標語である『[I serve, but not We serve](#)』に大いに関係し、正に実感できる場でもあります。

『奉仕に関する5つの視点』は、以前スーパーボランティアによる2歳の子供を探し出した奉仕活動を例にご紹介しました。思い出して頂くために、改めて簡単にお話ししますと、

先ず一点は、奉仕を受ける側の『物事』の必要性の探索・確認又は真のニーズ見極めが重要である事。

第二点は、自分又は我々の奉仕可能な『物事』は何か、又その量や程度を決める必要がある事。

第三点は、『奉仕内容の需給マッチングと有効な変換手段の決定と獲得』。

第四点は、奉仕活動への『**動機の強さと継続性**』についての再確認。

注意すべき最後の五点目は、奉仕する態度、心構えも重要であると言うことでした。

今回実施されるプロジェクトは、『奉仕を受ける物事(高嶺園として大型テレビが必要)』と『奉仕側の物事(会員メンバーの一年間のドネーション)』が正に合致し、そしてロータリー財団の地区補助金制度と言う『奉仕変換機能』を介して実施されると言うことをご理解して頂きたいと思います。更に、贈呈式に多数のロータリアンが参画することによって、ロータリアンの奉仕する態度、心構えも示すことが出来るのではないかと思います。

又、更に重要なのは、ロータリークラブでは、組織的な奉仕活動も沢山ありますが、基本的には『**会員一人一人が奉仕活動の単位**』です。すなわち、ロータリークラブの基本理念である

『私は奉仕する(I serve)』、又は『 I serve, but not We serve』、つまり『自己の責任と判断において、職業奉仕など5大奉仕を自発的に行う』という考え方を、身を持って確認する良い機会として頂きたいと思っています。

この度のプロジェクトは、財団又はクラブやロータリー財団委員会が寄贈するのではなく、ましてや会長や委員長でもありません。クラブメンバーの個々の自発的な奉仕の結晶が実施されるのです。正に『私は奉仕する(I serve)』が行われるのです。

従って、今年度は、『 I serve list 』として会員名簿を、贈呈の式次第に添付するよう、神谷晃 及び 金子法子 新旧財団委員長にお願いしています。

是非とも、奉仕プロジェクトの主人公であるロータリアン自ら贈呈式に参加し『 I serve 』を実践・実感する機会にして頂ければ幸いです。

同様に、標語を身近なものとする為、また奉仕活動を今まで以上に自発的なものとして推奨するために、例えば、9月23日(日)に行われる彫刻清掃の出欠表の表題を『 I serve list 』と

して、参加を問うなどが考えられます。更に、ポリの募金箱に『私はポリオ撲滅に奉仕します(I serve poliomyelitis extinction)』と書かれたラベルを張るなど、日常且つ目に見える形でのクラブの改善・改革、更には意識改革をも含めた戦略立案を、田中戦略委員長に提案したいと思っています。

以上で、会長の時間を終わります。